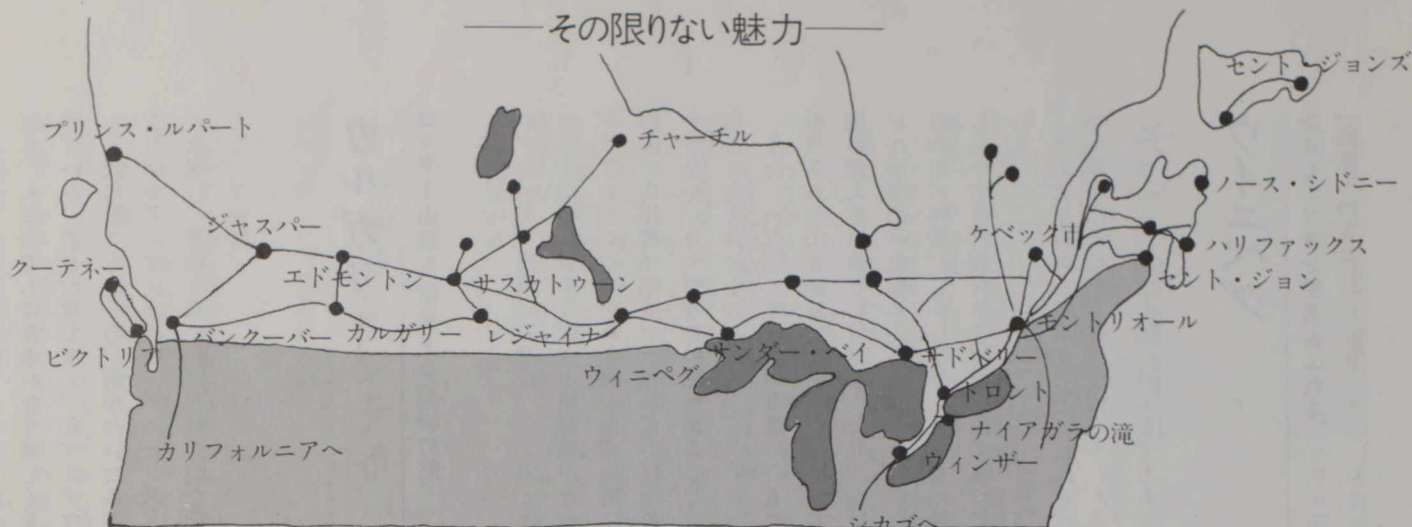


カナダ横断の旅

—その限りない魅力—



カナダは、アメリカとの国境から北極海まで、約一百万平方キロ、日本の二十七倍、ソ連に次いで世界第二位の広さをもつ。しかし、実態はといえば、アメリカ国境に沿った幅約三〇〇キロ、東西六〇〇キロのベルト状の地帯に、人口の九〇パーセントが住んでいるという、横に細長い国だ。細長いことで有名な南米のチリでも南北四〇〇〇キロほどだから、実質的にはカナダこそ、世界一の細長い国といえるのではないだろうか。

そんなカナダを東西に一直線に走っているのが、全長六千キロ、世界最長の大陸横断道路トランス・カナダ・ハイウェイ（カナダ横断道路）だ。

細長い国ゆえに、西と東では、自然もそこに住む人々も、社会もそれぞれ少しずつ異なっている。山岳地帯あり、大草原あり、大都会もひなびた農村もある。世界経済のあわただしい動きと共に生きている人々もあれば、いまなお辺境のフロンティアで、新しい希望の土地に夢をさせている人もいる。そんな様々のカナダの素顔を縫うように走るトランス・カナダ・ハイウェイ。

このハイウェイをたどりながら、カナダを西から東に横断してみよう。

ビクトリア

英国調漂う気候温暖の島

ブリティッシュ・コロンビア州の州都ビ

クトリアは、太平洋岸最大の島であるバンクーバー島の東南端にある美しい街だ。気候は温暖で、色とりどりの花が四季を問わず咲き乱れている。退職後にのんびりとここで余生を送る人も多く、日だまりに老人の姿をみると、ビクトリアが何と幸福な土地かと思わずにはいられない。

この街のカラーは英国調だ。市街には赤い二階建てバスが走り、落ち着いた街のたたずまいは、いかにもイギリスが感じられる。それもそのはずで、ビクトリアという名前は、一八四五年にここを王領植民地と宣言したビクトリア女王にちなんでつけられたものだからだ。

バンクーバーからは、水上飛行機もあるが、普通はフェリーで行く。点在する小島を抜けて、ゆつくりと進む船にのっていると、ときおりエサをついばみに船の上に舞いおるカモメの姿に、旅情を感じる。三時間でビクトリアに着く。

バンクーバー

風光名媚な大貿易港

トロント、モントリオールについてカナダで第三番目に大きい都市が、西の玄関口といわれるバンクーバーだ。太平洋に面し、カナダ第一の貿易港として、商業や工業に大きな役割をはたしている。

街の名前は一九二二年英国からやってきたキャプテン・バンクーバーにちなんで付けられたもの。彼は太平洋の立派な

地図を作りあげた。その功績を記念して、この土地がバンクーバーと呼ばれるようになったという。その後、一八五〇年代のゴールド・ラッシュに東部から多くの人々が移り住み、一八八六年にカナダ太平洋鉄道が完成すると、街全体が飛躍的に発展した。

現在、市中には、他の世界の大都市と同様、高層ビルが立ち並んでいるが、それでもこの大都市は美しい海岸線を持ちつづけ、今なお風光名媚な大都会として



生きつづけている。この蔭には、美的見地から、住宅さえも隣りと同じデザインで建ててはいけなく、というほどきめ細かな政策をうちだしている市当局の努力も見逃してはならない。

バンクーバーは、カナダの中でも温暖